

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/久保田勉

“異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌”

「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第17回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第6弾」が【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の真相と現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



「われらのインター」で吠えまくる松崎・・・その3「大左翼連合構想！」

最近の『われらのインター』記事内容などを見ていると、松といわゆる松崎チルドレンと称される人々の周辺に、多彩な経歴を持つ著名な人々が集まりつつあるように感じられる。例えば、樋口篤三（労働運動家）、戸塚秀夫（東京大学名誉教授）、鈴木邦男（新右翼「一水会」前代表）、武藤功（作家・評論家、文と思想誌『葦牙』編集長）、宮崎学（作家・評論家）、本澤二郎（政治評論家）などの諸氏である。作家、起訴休職外務事務官(当時)・佐藤優氏もその一人だ。だいたい左翼系と分類できようが、佐藤優氏や一水会の創設者・鈴木邦氏も連なっているように、けっこう幅広い人脈と云えよう。・・・

今や松崎とJR総連・東労組擁護の“外壁”と化した感のある樋口篤三氏は、【私は今79歳、たまたま長生きしたのですが、半分いつ死んでもいいやという感じがするのです。……が一方ではまだまだこれから闘ってなんとかもう一回、日本を変えることに挑戦したいのです。昔は革命と思ったけれども革命論がかわって、いまは権力奪取・政治革命ではなく、環境・ジェンダー・コンミュン社会、反差別等の永続革命としての「社会革命」だ。社会革命運動の中心になるのは労働運動ですから、その根本的再建をめざす。そしてやっぱり平和を守るためには9条憲法を守らなければいけないということ。ここを中心に、少しでも長生きして闘いたい。私はもう一回、日本労働運動の多数派に挑戦しようと思っているのです】……と持論である大左翼連合構想へ向けた問題提起を行っている。このような立場の樋口篤三氏の存在は、ある意味で“閉塞状況”にある現在の松崎にとって、「渡りに船」というか、極めて有り難いものであるように思える。

・・・『われらのインター』で、大久保孟氏（国際労働総研研究員）は次のように述べている。大久保；佐藤優さんとか宮崎学さんとかですね。かつて国労支援をしていた学者の人たち、例えば戸塚秀夫さんという東大教授の先生で元共産黨員の方、樋口篤三さん、山崎さん、川上徹さん、武藤功さん、常石さん。そういう人たちがいて、会長を囲んで会長の話は面白いと。今までは革マル松崎じゃないかと、でもどうも違うというように、四茂野君が一年越しに付き合ってきて、会長を囲むということでその人達が集まっているんですよ。どうも今までと違うと、今まで動労あるいは東労組がやってきたことはこれは凄いなと、松崎さんというのはこれはただ者じゃないなと。

このことは大弁護団構想実現をどう具体化するのかと繋がっていると思う。（後略）なお、08年8月28日、「樋口篤三さんの傘寿と出版を祝うつどい」が都内アルカデア市ヶ谷で開かれた。『松崎明秘録』と同じ“同時代社”から刊行され樋口氏の原著『社会運動の仁義・道徳一人間いかに生きるべきか』記念を契機にした集りのようであるが、その案内状記載の“「つどい」発起人”の顔ぶれを見ると、樋口氏のいわゆる「大左翼構想」に好意を持つ人々と重なり合う人物が多いように思われる。

【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌（高木書房）P.164～P.172】